

武井新所長挨拶

2007年2月から2010年2月までの駐在に続き、再びラオスに赴任できたことを大変光栄に感じております。3年ぶりにラオスに来て様々な変化を目にしましたが、車両の増加、市街地の開発、海外からの投資や観光客の流入は相当なスピードで進んでいるようです。2013年2月にWTO加盟を果たし、2015年にはASEAN域内の関税が原則撤廃がされる中、経済発展や社会の変化は更に加速していくでしょう。

ラオス政府は、現五カ年計画の中で経済成長率8%以上、2020年までのLDC（後発途上国）脱却等の目標を掲げ、経済発展を急務としつつも、その過程で生じる負の側面を懸念し、バランスの取れた形での経済発展を志向しています。JICAではこれらの目標達成を支援しつつ、ASEANが進める域内統合、連結性の強化、域内の格差是正を図っていく観点から、「経済・社会インフラ整備」、「農業の発展と森林の保全」、「教育環境の整備と人材育成」及び「保健医療サービスの改善」の4つを重点分野し、特に、環境等にも配慮した経済成長の促進に一層の重点を置いた援助を展開していきます。



G/A署名式にて

JICAが長年行ってきた専門家やボランティアの派遣を通じた能力開発と昨年再開された有償資金協力等も活用したインフラ整備を組み合わせた包括的な支援に加え、ODA予算が縮減傾向にある中で、ラオスの持続的な発展に不可欠な民間資金の動員を促進する観点から、民間企業との連携強化に積極的に取り組んでいきます。ラオスの持つ豊かな自然との調和や相互扶助能力の高い社会や国民の特性に配慮したラオスらしい発展を支援していきたいと考えています。

2013年3月 ラオス事務所長 武井耕一

タケク上水道拡張計画（詳細設計）G/A署名

2月20日、武井新所長が着任された次の日に「タケク上水道拡張計画（詳細設計）」のG/A(Grant Agreement, 贈与契約)が計画投資省とJICAの間で締結されました。本件は、カムアン県タケク市に浄水場を建設し、上水カバー率を現状約50%から80%に引き上げることを目的としています。

無償3案件 E/N 署名

3月26日、横田順子駐ラオス大使と先方トンルン・シースリット副首相兼外務大臣との間で、総額30億4,900万円を限度とする以下3件の無償資金協力に関するE/N(交換公文)の署名が行われました。各案件のG/A(贈与契約)についても、3月29日、計画投資省とJICAの間で締結されました。

- (1) 「小水力発電計画」（供与限度額：17億7,500万円）
- (2) 「南部地域保健サービスネットワーク強化計画」（供与限度額：7億4,100万円）
- (3) 「次世代航空保安システムへの移行のための機材整備計画」（供与限度額：5億3,300万円）



北澤 豪さんのラオス訪問

日本サッカー協会特任理事でJICAのオフィシャルサポーターを務める北澤豪さんが2月15日ラオスを訪問しました。ラオスサッカー協会が主催しJICAが支援して実施する「グラスルーツフェスティバル」の共同記者会見や指導者講習会に出席するためラオスを訪問しました。記者会見では「サッカーを通じて青少年の心身の健全な発達を促進できると思う。指導者の皆さんには、青少年が明確な目標を持ってサッカーに取り組めるように指導して欲しい。」と述べました。サッカー教室では約200人の小学生に楽しさを伝えるとともに、「皆さんでラオス・サッカーを盛り上げレベルアップを図って下さい。ぜひアジア全体にこのプロジェクトを広めていきましょう。」と感想を述べました。

ラオス観光公式ガイド 完成

長期滞在者に必携のラオスの観光ガイド、北はポンサリー県から南はアッタプー県まで、全17県の観光局おすすめ旅スポットを紹介するガイドブックが完成しました（ラオス情報文化観光省監修）。同ガイドブックは、情報文化観光省に派遣されている藤田シニア海外ボランティアの活動の中でまとめられたものです。「地球の歩き方」には載っていない見どころが満載！皆様もぜひお手にとってみてください。



（JICAオフィス向かいCooLaoで販売中。
ラオス国内販売価格145,000KIP）

JICA関係者打合せスペースの拡充

JICA関係者の皆様（ボランティア、専門家、NGOの皆様）がご自由にお使いいただけるオープンスペースが事務所3階会議室エリアに拡充しました。JICA事業報告書他各種資料の閲覧が可能であるほか、関係者打ち合わせや交流ができるスペースもあり、企画展示も可能です。事前の申し込みは不要です。各種打合せにご活用ください。どうぞ気軽にお立ち寄り下さい。

住所：JICA ラオス事務所3階、Sihom Commerce Center Building,
3rd Floor, Souphanouvong Road

電話：+856-21-241100（担当：永澤／浅野）
開館：月～金曜日 8:30～17:00（土日祝は休館）

官民合同対話の実施

昨年12月21日、「第6回日ラオ官民合同対話」が実施されました。同会合はラオスの投資環境の改善を進める目的で、2007年から開催されているものです。

今回の会合では、ラオスにおける最新の投資環境や、当地商工会議所と政府との間の対話についての説明、当地日本人商工会議所を中心にラオスの投資環境改善のための課題を取り上げた3つのワーキンググループ（①法律・政策の透明性、②税制・会計、③物流）よりこれまでの成果について報告がありました。

ラオス側はソムディ計画投資大臣をはじめ関係各省庁職員、日本側は在ラオス日本大使及びビエンチャン日本人商工会議所、JICAラオス事務所、JICAバンコク事務所、JETROバンコク事務所、日アセアンセンター等からの出席からの出席がありました。

現在、日系企業のラオスへの関心は過去に例を見ないほど高まってきています。これを今後は実際の投資誘致に結び付けるべくラオス側には関係省庁が一体となった投資融資策の実現が期待されます。

LPPテレビ連続放映

JICA-ASEAN連携ラオスパイロットプロジェクトでは、ラオ国立テレビに主要なイベントをカバーしてニュースで流して頂いています。昨年末12月には戸川所長のインタビューも放映されました。ニュースはラオスの他のチャンネルでも放映されていますので、ニュースにご注目下さい！



>>>News Update

パートナーシップセミナー開催

JICAパートナーシップセミナーが2月11日から2月16日の6日間の日程で開催されました。当セミナーは、本邦NGO、自治体、企業、研究機関等から参加者の公募を行い、国内研修、現地視察、帰国報告会を通し、JICA、市民セクターの連携を深める目的で毎年行われています。今年開催地はラオスで、ご多忙の中、専門家、協力隊、草の根技術協力関係者の協力のもと、ビエンチャンではIVJapan職業訓練校、ラオス日本センター、バンヴィエンのうちわプロジェクト、ナムグム水力発電所を視察、その後南部に移動し不発弾処理現場、南部生計向上プロジェクト、ケオウドム小学校、一品一村プロジェクトを訪問しました。参加者報告書ではプロジェクト関係者の地道な努力や取組、情熱に感銘を受けたこと、普段訪問できない土地やプロジェクトサイトの視察を通し貴重な経験ができたこと、今後の草の根を通した事業のヒントを得たことやバックグラウンドが違う様々な参加者の視点からJICAへの提言など上げられました。また、参加者のJICA事業の理解も深まり帰国後の参加者が発信する広報効果も期待され、大変有意義なセミナーになりました。



地雷撤去作業を真剣に見学する参加者

協力隊各分科会活動報告



1月21日に理数科教師・小学校教諭隊員による教育分科会、またその後教育省副大臣出席のもと教育分野ボランティア報告会を実施しました。報告会では、協力隊員による指導方法の改善・向上に関する取り組み、指導補助教材の開発についての活動、またホームページへの情報の提供などが発表されました。教育省のリトゥー副大臣は、熱心に報告を聞かれ、1時間半にわたり意見交換を行いました。(1)

●JICA四国ボランティア理解促進調査団（愛媛県）

去る3月4日～3月10日、愛媛県の自治体・民間企業・マスコミからのメンバーがラオスを訪問。愛媛県出身の現職参加隊員の活動や、草の根事業（地域提案型）「うちわ産業振興支援プログラム」、及びラオス進出日系企業の視察を行いました。

●沖縄県グローバル人材育成支援事業におけるラオス視察

3月17日から19日には、沖縄グローバル人材セミナーの現地視察として、沖縄県内企業の方々8名がラオスを訪問。沖縄県グローバル人材育成支援事業は、企業の海外展開における人材の育成を支援するもので、ひいては沖縄県内企業の海外展開支援にもつなげていきたいと考えているものです。参加者は、ラオス日本センターや日系進出企業、青年海外協力隊活動の訪問などを行いました。帰国後は、その成果を活かし、今後のビジネス展開の具体的なアクションについて検討を進めていくとのことです。



(2) 1月30日には、医療文科会が実施されました。「ラオスにおける医療行為のあり方について」や「ラオスにおける医療機器取扱い等について」専門家やラオスで活動するNGOからの講話のあと、グループワークとして活動の疑問点や悩みについて意見交換を行いました。

また、青少年活動分野では2月1日と2日にルアンパバン子ども文化センターにおいて文科会を実施しました。現在ラオスには3名の青少年活動隊員が活動していますが、それぞれの活動内容を報告するとともに、意今後の活動のより円滑かつ効果的な実施に向けた意見交換を行いました。

今後もこれらの分科会活動を継続し、よりよいボランティア活動の実施につなげていきたいと考えています。

“戸川前所長に友好勲章”

2010年から3年間の任期を終えられた戸川前所長の離任に際し、ラオス国計画投資省より友好勲章が授与されました。同勲章は、ラオスの経済社会開発における戸川前所長の貢献を称え、表彰するものです。

また、戸川所長の離任に際しては、各関連省庁への表敬訪問を実施しました。トンルン副首相兼外務大臣からは、戸川前所長在任中、現場のニーズに沿った援助が計画され、多くのプロジェクトが実施されたことに、感謝の意が述べられました。特に、インフラ整備、人材育成、貧困削減、UXO対策等の包括的な支援、またアジア欧州首脳会合（ASEM）開催のためにビエンチャン国際空港拡張事業の実施については、その功績について言及がありました。



計画投資省ソムディ大臣と

【食中毒にご注意を】

本格的な夏を迎え温度、湿度が上昇し食中毒が多い季節となりました。代表的な症状は、腹痛、下痢。発熱や嘔吐を伴うこともあります。特に生肉、加熱不足の肉による食中毒は、血便が出たり、悪化すると毒素が全身に回り命に関わることもあります。食中毒が疑われるときは、直ぐに医療機関を受診しましょう。受診までの諸注意は以下の通りです。①吐きやすい体位で安静にする ②水分、電解質を補給する③自己判断で下痢止めや鎮痛剤を服用しない。基本的に、生の肉には食中毒の原因菌がいると考えましょう。これは、鮮度の問題ではなく「菌が付着しているかどうか」が問題です。食中毒菌は熱に弱いので、ほとんどの菌は75℃で1分以上加熱すれば死滅しますので、食品の中心部までしっかり加熱することが大切です。

（健康管理員から）

ラオス事務所・今後の予定

4月5日（金）第9回専門家会議

4月15日（月）～17日（水）

ラオス正月（事務所休日）

5月1日（水）国際労働の日

（事務所休日）

【安全管理にご注意を】

最近ビエンチャン市内でのひったくり被害が増えています。事前の十分な予防対策と、心がけにより、被害を最小限に食い止めることができると思います。再度ひったくり対策のおさらいと犯罪被害対策への意識向上をお願いします。

--- 【ひったくり対策】 -----

- 1 高価な物は身につけない。
- 2 車道側や人通りの多い側に荷物を持たない。
- 3 女性のハンドバッグ等は、たすき掛けにするとともに身体の前で持つ。
- 4 (1) 自転車の前かごにはなるべく荷物は入れない。
(2) 前かごに荷物を入れざるを得ない場合には、貴重品等を荷物に入れない。
(3) 前かごには必ず上から防犯ネット等のふたとなるものをかぶせる。
- 5 パスポート、金品等の貴重品は懷中で保管する。
- 6 被害に際しては抵抗しない。
- 7 早朝、深夜の一人歩きはしない。

おことわり

本ニュースレターはJICAラオス関係者を対象としたものであり、JICAラオスの活動内容及びニュースの共有を目的とし、約3ヶ月に1度を目処に発行していく予定です。ご意見・ご質問はこちらまでお願いします。

Yoneyama.Yoshiharu@jica.go.jp（米山） Taki.zawa.Masahi@jica.go.jp（滝沢）